

加藤昌男著「どうして黒くないのに黒板なの？」少年写真新聞社 2024年8月1日刊を読む

## 黒板にしてはいけないこと

1. テープなどをはらない
2. 人を傷つける、らくがきをしない
3. チョーク以外で書かない
4. 水をかけない
5. 洗剤で洗わない
6. 物を投げない

### I 上手に文字を書くコツ

#### 1. チョークの持ち方

(1) 黒板に上手に文字を書くには、まずチョークの持ち方が大事です。

(2) ①チョークは、ものをつまんでひろうときのように「人差し指」と「親指」でつまんで持ちます。

②そして人差し指の先に少し力を加えながら、黒板の表面に押しつけるように書いていきます。

③チョークを長めに持って力を加えると折れてしまいますので、折れないようにチョークの先のほうを持つようにします。

(3) はじめてチョークを持つと、どうしてもえんぴつをにぎるように立ててしまいますが、えんぴつとチョークでは持ち方がちがいます。

(4) ①えんぴつで書くときは、机の上に平らに置いた紙やノートに書きます。黒板は、かべに取りつけられていますから垂直に立っています。

②ですから黒板に書くときは、背筋をのばして黒板と向き合う姿勢をとりましょう。

③そうすれば、「少し力を加えながら」「おしつけるように」書くという感じがつかめるでしょう。

#### 2. だれもが読めるていねいな字

(1) ①黒板に文字を書くのは、だれかに読んでもらうためです。

②だれもが読めるように、大きく、正確に、ていねいに、はっきり書くことが大事です。

③ひらがなでもカタカナでも漢字でも数字でも、線の長さや方向、点の位置や向きで一字一字のもつ意味がちがってきます。

④カタカナの「ツ」と「シ」は、点の向きがちがいます。

(2) ①漢字の「大」と「太」と「犬」は、点があるかないかや、点のつける位置でまったくちがう文字になります。

- ②「未」と「末」は、横線の長さがちがいます。「休」と「体」は横線があるかないかでちがう字になります。
  - ③「開」と「閉」は、「門がまえ」の中身をきちんと書かないと逆の意味になってしまいます。
  - ④数字の「0」と「6」もていねいに書かないとまちがえやすいですね。
  - ⑤「左」と「右」とでは、書き順がちがうということは知っていますね。「左」は「一」から書き始めます。
  - ⑥「右」は「ノ」を最初に書きます。
  - ⑦黒板に書くときはみんなが見ていますから、書き順には注意したいものです。
- (3)①黒板に文字や数字を書くときは、文字の大きさや、行をまっすぐにそろえることも大切です。
- ②教室によっては黒板にうすい色でマス目が入っているものがあります。
  - ③字の大きさをそろえたり、行が曲がらないようにしたりするのに便利です。

### 3. 小学校で習う漢字は 1026 字

- (1) 小学校の国語の教科書に新しく登場する漢字は学年ごとに決められていて、6年間で習う漢字は全部で 1026 字です。
- (2)① 1年生ではまず、「大」「小」や「上」「中」「下」などの画数の少ない漢字 80 字を読んだり書いたりできるようにします。
- ② 2年生では 160 字、3年生以降はおよそ 200 字ずつを覚えて6年間で 1026 字を習います。
  - ③ どれも生活をしていくうえで必ず必要になる漢字です。
- (3) 1年生のころから新しい漢字が出てくるたびに一字一字ていねいに書く練習を重ねてくると、読んだり書いたりできるかと思います。
- (4) 「とめ・はね・はらい」も「書き順」もしっかり身につけていますか。
- (5)① 小学校を卒業するとさらに新しい漢字を習うことになります。
- ② これまでに習った漢字は今のうちにしっかり復習をしておいて、すべて、書いて、読んで、使えるようにしておきたいものです。
  - ③ そして、黒板の前に出てチョークを持ったときに、みんなのしている前で、のびのびと自信をもって書けるといいですね。

### 4. 手で書くことを大切に

- (1)① パソコンやスマートフォンを多くの人を使うようになってから、わたしたちは、手でものを書くことが少なくなってきました。
- ② みなさんの学校でも、全員に1台ずつパソコンやタブレットが配られてから文字を書くことが減ってきたのではないのでしょうか？
- (2)① 漢字を忘れてしまった場合でも、指先で画面にふれたりキーをたたいたりすれば、機械が字を打ち出してくれます。
- ② 算数の計算も、ノートや黒板に数字を書いてかけ算をしたり、わり算をしたりしなくても、電卓が答えを出してくれます。
- (3) 便利にはなりましたが、このまま進むとどうなっていくのでしょうか。
- (4)① わたしたちは、先生が黒板に書いた字をノートに書き写したり、教科書の字を漢字練習帳に

書いたりしながら、一字一字を覚えてきました。

②自分で手を動かしたり、頭を働かせたりしてこそ、知識や考え方がしっかりと身についているのではないのでしょうか。

(5)①便利な道具があると、えんぴつやペンや筆を持つのがめんどろになりがちです。手で文字を書くことは、その気にならないとなかなかできません。

②日記やお礼の手紙を書いたり、百科辞典やタブレットで調べたことをノートに書き写してみたり、書くことが見つからなかったら、4年生で習う漢字を1字ずつ、書き順を確かめながら書いてみるのもよいでしょう。

(6)そして、大きな文字をのびのびと書いてみたくなったら、チョークを持って黒板に向かってみることをおすすめします。

## II 先生たちの「板書」の工夫

### 1. 1時間の授業を1枚の黒板で

(1)①「板書」とは、黒板に文字などを書くことです。黒板は、先生のもっている知識や経験をみなさんに伝えていく中つぎの役目を果たします。

②先生の指先から生まれる新しい情報を、クラスのみんなが確かめながら学ぶことで、一人ひとりの知識や考え方がふくらんでいきます。

(2)①小学校の授業はふつう1時限が45分です。

②中学校は50分です。

③この時間の中でわかりやすい授業ができるように、先生たちは工夫を重ねています。

④黒板の、どの位置にどんな文字を書いたらよいのか、どんな図を使えばわかりやすくなるのか、大事なことがらをどう印象づけるのかなど、効果的な板書の仕方を考えて授業を進めています。

(3)①そして、授業が終わってチャイムが鳴ったときに黒板に書いた内容をふり変えると、学習したことがみんなに伝わったかがわかります。

②1時限の授業を1枚の黒板で表せれば、子どもたちにとってもわかりやすい授業だったということになります。

### 2. 文字の大きさ、色、配置

(1)①先生たちは授業に先立って「授業計画」と「板書計画」を立てます。

②授業計画は、授業のねらいをはっきりさせて、教科書や教材をどう使っていくのか、時間をどう配分するのかを考えます。

(2)①板書計画は、授業の流れにそって、どんな順番でどんな文字や図を書いていくのか、そして黒板全体にどう配置していくのかを考えます。

②文字の大きさは、小学校低学年では10センチ四方ぐらい、高学年では8センチぐらいが適当だといわれます。

③チョークの色は、ふつうの文章は白で、大事なところは黄色で書いたり赤いわくやアンダーラインを引いたりします。

④ノートをとる子どもたちに、ここが大事だと気づいてもらうためです。

3. (1)①文字を書く順序は、ふつうは、たて書きなら右の一行目から、横書きなら左上から書いていきますが、いきなり、大きな字で黒板の真ん中に大事なことを書く先生もいます。
- ②その授業は、そのことが中心になって進んでいくことになるのでしょう。
- (2)①物語を読んで登場人物の気持ちを話し合う授業では、先生が一人ひとりの発言を聞きながら要点を黒板に書き出していきます。
- ②板書をする時、ほかの友だちの意見をふり返ったり比べたりすることができますので、じっくり考えたり、話し合いがはずんでいったりするでしょう。
- (3)先生たちは、授業の内容によって、さまざまな板書の工夫をしています。それに気づきながら受けていくと、授業も楽しくなりますね。

#### 4. 書くときの姿勢も、考える「間」も

- (1)①板書をしているときは、先生は後ろ向きになります。
- ②背中しか見えませんが、そんなときでも先生たちはいろいろな工夫をしています。
- (2)①チョークを持つ手もとが見えるようにしっかり手をのばし、黒板の下のほうに書くときは姿勢を低くするように心がけます。
- ②書いている間も子どもたちと黒板の両方に注意をはらいながら、書く速さをゆっくりしたり速くしたりします。
- ③板書を大事にする先生は、子どもたちに説明をしたり話しかけたりするときと、板書をするときとは、はっきり区別をして、おしゃべりをしながら板書をしないように気をつけているそうです。
- (3)先生が黒板に向かって長めの文章を書いているときはチョークの音だけが響いていしばらく「間」ができますが、そんなときは、それまでの流れをふまえて、その先を考える大事な時間です。

### Ⅲ チョークと黒板消し

#### 1. チョークは色も種類もいろいろ

- (1)①「黒板」という言葉には「黒」の字が入っています。
- ②でも「黒」だけでなく、いろいろな色のものがあります。
- (2)①「白墨」(チョーク)には「白」の字が入っています。
- ②でも「白」だけではなく、いろいろな色のものがそろっています。
- (3)①チョークのメーカーが作っている色は7種類ぐらいあります。
- ②「白」「黄」「赤」「青」「緑」「茶」それに「紫」などです。
- (4)①このうち赤には、オレンジやピンクに近いものもあります。
- ②青や緑は、グリーンの黒板でも見やすいように明るい色に工夫されています。
- ③蛍光色を使った光るチョークもつ作られています。

#### 2. (1)①チョークが発明されたのは19世紀初めのフランスです。

- ②石灰の粉や焼いて水に溶かし、棒のような形に固めて作ったそうです。

- ③同じころアメリカでも作られ、黒板とともに学校の授業に使われるようになりました。
- (2)①日本では、黒板は 1872 年(明治 5 年)から使われるようになりましたが、チョークはしばらくの間輸入品を使っていました。
- ②国産のチョークが作られたのは 3 年後の明治 8 年です。
- ③大阪の輸入商が石膏を七輪で焼いて作ったそうです。
- (3)①「石膏」というのは、美術のデッサンに使うあの「石膏像」の「石こう」です。「七輪」はサンマなどを焼くときのあの"こんろ"です。
- ②身近な道具で工夫をしたのですね。
- (4)チョークの原料は、現在では、「石こう(硫酸カルシウム)」のものと、「炭酸カルシウム」と呼ばれるものとの 2 種類があります。
- (5)黒板に書くときの書きやすさは、石こう性のほうはタッチがやわらかく太い文字が書きやすいのに対し、炭酸カルシウム製のほうはタッチがかためで、細かい文字を書くのに向いていて、書くときの音が高いといわれます。
- (6)チョークは手で持つと粉が手についてよごれやすいため、メーカーではできるだけ粉が飛び散らない製品を作るように工夫しています。

### 3. 色の使い分けでわかりやすく

- (1)みなさんの教室では先生はチョークをどんなふうに使っていますか？
- (2)さまざまな色のチョークを使い分けることで学習の内容がわかりやすく、授業が楽しいものになります。
- (3)①「白」のチョーク 1 本だけでも授業はできます。
- ②でも、「白」「黄」「赤」の三色を使い分けているという先生が多いのではないのでしょうか？
- (4)ふつうの文章は「白」で、大事なところは「黄色」で、もっと大事なところは「赤」で線を引いたり、わくで囲んだり、というように。
- (5)そのほか、「記号」や「矢印」「星印」、さらに大事な部分を強調する「囲み」や「アンダーライン」「波線」などには別の色を使う先生もいます。
- (6)社会科などで地図や見取り図をかくときには、海や川は青で、山は茶色で、平野は緑で着色するなど、いろいろな方法があります。
- (7)ただ、色を使いすぎるとごちゃごちゃしてわかりにくくなってしまいますので、すっきり、見やすくするのがコツです。
- (8)①チョークの色は、濃いグリーンの黒板に書いたときに見やすく、読みやすいことが大事です。
- ②ある研究では、一番見やすい色は「白」。つぎに「黄色」。続いて「赤」、「茶色」、「青」の順だとされています。
- ③また、遠くはなれると「茶色」より「青」の方が見やすいという実験の結果もあります。
- (9)①「真っ黒な黒板に白い文字」だけだと、モノクロ(白黒)写真を見ているような物足りなさがあります。
- ②黒板の色やチョークの色には、授業をわかりやすくしてくれる働きがあります。
- (10)教室で黒板に向かうときは、先生たちがどんな色の工夫をしているのかを考えながら授業を受けるのも楽しいことですね

#### 4. きれいに消して次の授業へ

- (1) つぎは「黒板消し」の話です。「黒板ふき」とも呼ばれます。
- (2) 黒板は「書いては消し、消しては書ける」のが特長ですから、消すための道具が大事ですが、「黒板消し」の仕組みはいたってかんたんです。
- (3) ① スポンジを芯にして、服やズボンに使われる「コーデュロイ」という布地で包んで、わくと取っ手をつければできあがりです。  
② 作り方はかんたんですが、布地がいたんでいたり、消すときに静電気が起きたりするとよく消せないので注意が必要です。
- (4) 黒板消しを使うときは、文字が書かれた部分だけを拭おうとせずに、たて方向でも横方向でも、黒板全体を均等に拭うのがコツです。
- (5) ① そして、**大事なのは、ふき終わったとあと、黒板消しについてのチョークの粉をきれいに取りのぞくことです。**  
② 以前は教室の窓を開けて棒などで黒板消しをたたいたりしていたために、粉が舞い散って、黒板の当番はたいへんでした。
- (6) ① いまは、電動式の「黒板ふきクリーナー」が教室に置かれるようになって、手入れも楽になりました。  
② ただ、**当番は、授業の合間や放課後には忘れずにクリーナーで粉を取りのぞいて、次の授業に備えることが大事です。**
- (7) ① 最近では、これまでのグリーンの黒板に加えて「ホワイトボード」が登場して、授業に使う学校も増えてきました。  
② ホワイトボードに文字を書くときは水性インクを使った専用の「マーカー」が使われ、消すときは、やわらかい芯にフェルトの布を巻きつけた「クリーナー」が使われます。
- (8) ホワイトボードは、手がよごれたり粉が舞ったりせず、手入れも楽なのがよさだとされますが、これまでの黒板のほうが書きやすく、消しやすく、目にやさしいという意見もあります。
- (9) ① このように、「書いては消し、消しては書ける教室の顔」は、黒い板からグリーンやグレーに変わり、ホワイトも加わってきました。  
② 書く道具も、消す道具も、使い方も、150年の間に、少しずつ姿や形や使われる材料が変わってきています。

#### <コメント>

NHK のNo. 1 アナウンサーであった加藤先生からは、数多くのことを学ばせていただきました。「チョーク一本で教育改革を」「教え方日本一」を目指す先生の参考書としておすすめします。

2024年8月8日(木)

林 明 夫